
男女関係の愛と幸福度に影響する魅力

川名 好 裕 (立正大学心理学部教授)

Attractiveness that affects the love and happiness of Male and Female relationships

Yoshihiro KAWANA (*Rissho University, Professor of Department of Psychology*)

Abstract

Internet survey data about the opposite sex that we have the most favor in our daily lives was analyzed. The data were for 518 males and 606 females in their 20s to 40s. In general, men want women with high aesthetic attractiveness, and women want men with high social status and economic power. But it is questionable whether these attractions affect love, relationship satisfaction and happiness. Multiple regression analysis was performed. As a result, it was found that the aesthetic attractiveness of women has no influence on lover relationships and marriage relationships. In addition, social status and economic power are important in distant male-female relationships where relationships with the partner are not established, such as friendships, unrequited love, and love affairs relationships. But in marriage relationships, on the contrary, partner's high social status and economic power were found to be a factor that hinders love for the other person, and satisfaction with relationships, and happiness. In lover relationships, engagement relationships, and marriage relationships, the factors that promote love, relationship satisfaction and happiness with the partner are the "sexual attraction," "social attraction," and "interpersonal attraction" of the partner.

Key words : Male and Female Relationships, attractiveness, love, relationship satisfaction, relationship happiness

問題と目的

先行研究

川名 (2019) は、インターネット調査で、東京および隣接県の年齢20歳～49歳の男性518名の男性と女性606名のデータを収集した。身近な日常生活の中で最も親密な異性を想定してもらい、その関係が友達、片思い相手、恋人、婚約者、結婚相手、不倫相手の六つの関係についてデータを分類した。異性パートナーの相手の魅力を因子分析した結果、「美的魅力」、「地位と富」、「对人的魅力」、「社会的魅力」の4つの因子を抽出し、これらの因子得点を目的変数として設定し、比較変数としては、本人の性別、相手の年齢の年代、相手との関係の三元配置多変量分散分析を行い、関係ごと、男女別、年代別に相手の魅力ごとに平均値を比較した。分析の結果、男性の相手は、多くの関係で「美的魅力」と「对人的魅力」が高い女性の相手であった。それに対して、女性の相手は、多くの関係で「地位と富」と「社会的魅力」の高い相手であった。男女がお互い自分のもっていない魅力を相手

に求めているという「魅力の相補性」が確認された。

次に関係満足度、関係幸福度について、性別、年代、相手との関係という三元配置多変量分散分析を実行して平均値を比較した結果、関係満足度、関係幸福度とも婚約者が最も高く、次に結婚相手、恋人相手の順であった。不倫関係は結婚関係より関係満足感、関係幸福感とも有意に低かった。魅力の結果と満足度、幸福度の結果が対応していない矛盾についての研究の検討課題が残った。

川名 (2021) は、同じような研究枠組みで、韓国の大学生に対して調査を実施した。男性42人、女性31人の小規模サンプルであったが、相手の魅力は、因子分析から「外見的魅力 (美的魅力・性的魅力)」、「性格的魅力 (对人的魅力・社会的魅力)」、「実利的魅力 (地位、富・有能性)」に分類された。分析の結果、男性は友人関係や片思い関係では、相手の女性に「外見的魅力」求めており、相手の外見的魅力と関係満足度が密接に関連していた。しかし、恋人関係になると関係満足度は、相手の魅力ではなく、相手への愛や相手からの愛などによって生起されていることが分かった。他方、女性は片思い関係で、

相手の地位・富・有能性などの実利的魅力を期待していることが分かったが、恋人関係になると相手との関係満足度を生起しているのは、相手の性格的魅力や相手とのコミュニケーションや共行動であることが判明した。男女とも、友人段階や片思い段階で相手の異性に期待している魅力と、恋人関係になってから関係満足度に影響している魅力や要因が異なるのである。

本研究の目的

本研究では、川名（2019）の結婚関係では、男女とも相手の魅力評定はあまり高くないのにも関わらず、関係満足度や関係幸福度は、婚約関係について高い値であったことの矛盾の解明の一つは目指している。また、川名（2021）の韓国の大学生で友人や片思い段階で相手に期待している魅力と恋人関係になってから関係満足度に影響している魅力が異なることなどの矛盾の解明をする目的で、大規模インターネット調査で得られた川名（2019）のデータを再分析して、男女の異性関係種類ごとに、どのような相手の魅力や自分の魅力が、相手への愛、相手からの愛、さらには関係満足度、関係幸福度に影響を及ぼしているか調べることを本研究の目的とした。

方 法

被調査者と調査時期

本研究で使用されたデータは、川名（2019）で使用されたデータと同じものである。インターネット調査会社に依頼し、東京および近県の首都圏の20～49歳の男女にオンラインデータを収集した。調査実施期間は2017年12月であった。有効データ数は、合計1124人（女性606人、男性518人）であった。

調査内容

インターネット調査で使用された質問内容の最初の指示は以下のとおりである。「現在のあなたにとって最も親しくしている異性または好きな異性（配偶者以外の家族を除く）を一人だけ思い浮かべさせ、相手との関係（友達、片思いの相手、恋人、婚約者、結婚相手、不倫相手）を回答してもらい、さらに、相手の魅力および自分の魅力、相手への愛、相手からの愛、関係満足度、関係幸福度を回答させた。こうして得られたデータのうち今回の報告では、相手の魅力や自分の魅力と、相手への愛、相手からの愛、関係満足度、関係幸福度との関係を分析し、報告する。

結果と考察

分析の概略

今回の研究報告では、男女関係で重要な目的変数である「相手への愛」、「相手からの愛」、「関係満足度」およ

び「関係幸福度」に影響を及ぼし、貢献する、または阻害する要因としての「相手の魅力」および「自分の魅力」を特定することを目的としている。男女関係は、友人、片思い、恋人、婚約者、結婚相手、不倫相手と関係の種類が異なるごとに重視される魅力の種類も違うであろうと思われるので、相手との関係ごとに分析をした。また、男性と女性では重視する魅力の種類も異なると思われるので、男女別々に分析した。分析手法は、段階的重回帰分析（増減法）を用い、「相手への愛」、「相手からの愛」、「関係満足度」および「関係幸福度」をそれぞれ目的変数とし、説明変数は、因子分析の結果得られた「相手の魅力」の因子得点および、「自分の魅力」因子得点である。また、「相手の魅力」には、因子分析で得られた魅力の他に、「性的魅力」という変数も加えた。その理由は、他の分析で相手の「性的魅力」が相手への愛、関係満足度、関係幸福度に大きな影響力をもっていることが判明していたからである。この変数は、7段階評定である。因子得点と性的魅力では、尺度が違うので、標準偏回帰係数を影響力の大きさの指標として用いることは、妥当性があると判断した。

重回帰分析の結果、標準偏回帰係数の大きさをその魅力の影響力、貢献力として解釈した。影響ありと判断した魅力は、 $P \leq 0.05$ で有意なものと、 $0.05 < P < 0.10$ の有意傾向のある標準偏回帰係数を使用した。

分析に使用した魅力因子の因子負荷量

今回の分析で使われる相手の魅力と自分の魅力の因子分析の結果と因子負荷量を示す。魅力の因子分析は、斜交回帰プロマックスでなされた（Table 0 参照）。

相手への愛に影響する相手の魅力：

男女関係において「相手への愛」に影響を及ぼす相手の魅力について調べるために、目的変数を「相手への愛」とし、説明変数を相手との関係ごとの「相手の魅力」因子得点にして重回帰分析を行った。

Table 1 に男女別、相手との関係別に行った重回帰分析の結果、有意および有意傾向のあった相手の魅力を表にした。

また、表の数値を男女別にグラフ化したものを Fig. 1-1 および Fig. 1-2 に示す。

まず、Fig. 1-1 で男性の相手の女性への愛に影響する相手の魅力のグラフを検討してみよう。友人から始まる全ての関係で共通に重要視されている魅力が「性的魅力」であることが分かる。しかし、男性が女性の交際相手に望むと思われる「美的魅力」は、入っていない。以前の研究で明らかのように男性は女性以上に交際相手に美的魅力の高い相手を平均的に選んでいることが分かっているが、より美的魅力のある相手をより愛しているという

Table 0 魅力項目の因子分析

自分の魅力の因子分析

美的魅力 因子	因子負荷量
3. 美しい	0.9415
2. ルックスがいい	0.8876
1. かわいい	0.8284
5. スタイルがいい	0.5996
6. 上品な	0.5905

相手の魅力の因子分析

美的魅力 因子	因子負荷量
3. 美しい	0.8931
1. かわいい	0.7768
2. ルックスがいい	0.7153
7. セクシー	0.5704
6. 上品な	0.5494

対人的魅力 因子

対人的魅力 因子	因子負荷量
10. 明るい	0.9424
12. 社交的な	0.8083
11. 面白い	0.7627
13. 思いやりのある	0.4389

対人的魅力 因子

対人的魅力 因子	因子負荷量
10. 明るい	0.9152
11. 面白い	0.7857
12. 社交的な	0.7356
13. 思いやりのある	0.3485

社会的魅力 因子

社会的魅力 因子	因子負荷量
17. 勤勉な	0.8627
18. 真面目な	0.8099
16. 頭がいい	0.5073
13. 思いやりのある	0.4361
15. 有能な	0.3675

社会的魅力 因子

社会的魅力 因子	因子負荷量
18. 真面目な	0.8687
17. 勤勉な	0.8346
16. 頭がいい	0.7024
15. 有能な	0.6061
13. 思いやりのある	0.5416

地位と富 因子

地位と富 因子	因子負荷量
20. 社会的地位が高い	0.8687
19. お金持ちな	0.7658
14. 支配的な	0.4726

地位と富 因子

地位と富 因子	因子負荷量
20. 社会的地位が高い	0.7743
19. お金持ちな	0.7185
14. 支配的な	0.3886

身体的魅力 因子

身体的魅力 因子	因子負荷量
5. スタイルがいい	0.6828
4. 背が高い	0.6700

結果ではないことは、興味を引く結果である。男女関係が成立すると相手の美しさに慣れてしまうのかもしれない。むしろ、より性的魅力のある相手を、より愛するという結果である。

次に気づくのは、片思いから不倫関係のすべての関係で「社会的魅力」が相手への愛に共通して大きく貢献している。社会的魅力とは、誠実さや真面目さなどや有能性、思いやりなどの魅力である。一对一の男女関係が成立すると、その付き合い関係で「誠実性」のある相手への愛が深まると解釈できるであろう。また、「対人的魅力」も恋人、婚約者、結婚相手に重視されている。対人的魅力とは、明るさや面白さなど外向性を中心にした魅力で対人関係を快適にする性質である。一对一の男女関係では、社会的魅力や対人的魅力などの相手の性格的魅力が美的魅力より重視されるようになると解釈できる。

相手の「地位と富」(社会的地位や経済力)などの結果

は、興味深い。友人段階のみで「地位と富」はポジティブに評価され相手への愛に貢献しているようである(逆玉の輿効果)。しかし、片思い、婚約者、結婚相手では、相手への愛を逆に阻害する要因になっている。相手の社会的地位の高さや経済力の存在は、むしろ相手への愛を減少させるのか(割引効果)、または、相手の社会的地位や経済力にひかれて相手と男女関係になるのは、元々、相手への純粋な愛が不足していて関係が成立したのかもしれない。

Fig. 1-2は、女性の相手の男性への愛に影響を及ぼす相手の魅力である。グラフを見て、第一に気づくのは、男性の場合と同じく、相手の「性的魅力」が友人から不倫関係に至る全ての男女関係で相手への愛に大きく貢献していることであろう。次に、恋人、婚約者、結婚相手においては、「社会的魅力」が大きく相手への愛に貢献していることは、男女共通である。対人的魅力も恋人、結

Table 1 相手への愛への魅力の重回帰分析

数値は標準偏回帰係数

性別	相手との関係→	友人	片思い	恋人	婚約者	結婚相手	不倫相手
男性	社会的魅力 (相手の女性)		0.5118	0.2430	0.265807	0.3174	0.361513
男性	対人的魅力 (相手の女性)			0.3158	0.336941	0.2197	
男性	性的魅力 (相手の女性)	0.5236	0.319456	0.3442	0.300122	0.275584	0.2418
男性	地位と富 (相手の女性)	0.16384	-0.20795		-0.23722	-0.2689	
女性	社会的魅力 (相手の男性)			0.3468	0.4691	0.2409	
女性	対人的魅力 (相手の男性)			0.2407		0.3075	
女性	性的魅力 (相手の男性)	0.610015	0.2997	0.4299	0.4869	0.3595	0.6430
女性	美的魅力 (相手の男性)	0.216888				0.1921	
女性	身体的魅力 (相手の男性)		0.2443				
女性	地位と富 (相手の男性)				-0.4054	-0.3097	

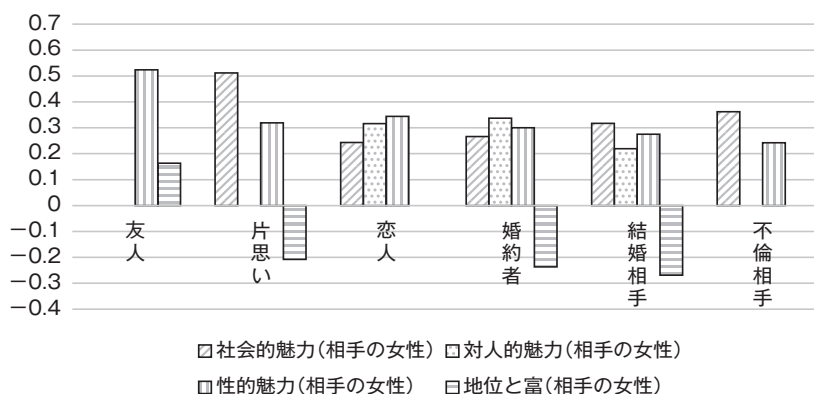


Fig. 1-1 相手への愛に影響する相手の魅力 (男性)

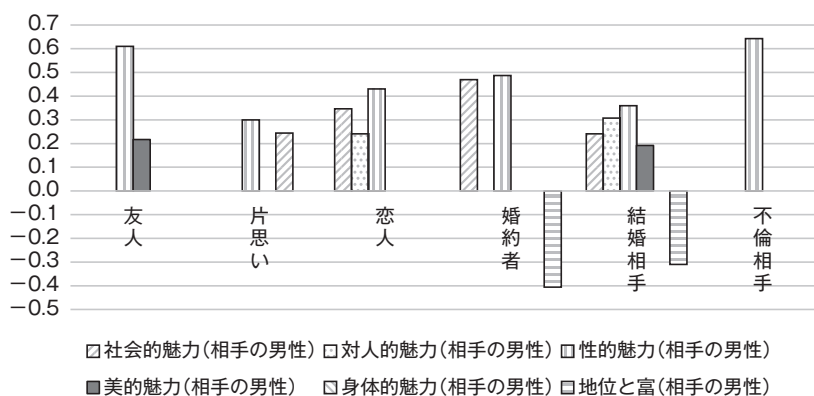


Fig. 1-2 相手への愛に貢献する相手の魅力 (女性)

婚相手で相手への愛に貢献している。やはり、「社会的魅力」や「対人的魅力」といった相手の性格的魅力が、確定した男女関係では、相手への愛に貢献する重要な魅力になってきているようだ。

男性の結果と違って、女性は友人関係と結婚関係で相手の「美的魅力」が相手への愛に貢献している結果は、

女性特有である。

もう一つ男女共通の特徴は、「地位と富」という相手の社会的地位や、経済力は、婚約者や結婚相手で相手への愛を阻害する要因になっているのは、特筆に値する。以前の研究で、女性は男性よりも平均的に社会的地位や経済力のある相手とカップルを組んでいることは、明らか

であった。男性の場合と同じく、結婚後の実利的意図のために、それほど相手への愛がないが相手の社会的地位や経済力に魅かれて相手と結婚する場合もあると解釈することもできる。経済的利得は、男女関係だけでなく、それほど好きでもない相手との関係を促進することを考えると納得できるかもしれない。経済力による愛の割引効果とも解釈できる。

もう一つ、女性の片思い関係で相手の「身体的魅力」が相手への愛に貢献しているが、身体的魅力は、男性の高い身長、スタイルのよさのような魅力である。一般的に女性は自分より、身長が高く、体重もある男性を好む傾向があるのは、以前から報告されている。男女は身長で10cm以上、体重でも10~20kgくらいの差が平均的にある。大きい男性と小さい女性のカップルは多い。

相手からの愛に影響する自分の魅力：

次に、相手からの愛に影響する要因としての「自分の魅力」について分析してみよう。「相手からの愛」を目的変数、「自分の魅力」因子を説明変数にして、男女別、関係別に重回帰分析を行った結果を示す。

Table 2に男女別、相手との関係別に行った重回帰分析の結果、有意および有意傾向のあった自分の魅力を表にした。

また、表の数値を男女別にグラフ化したものを Fig. 2-1 および Fig. 2-2 に示す。

まず、Fig. 2-1 は、男性の相手からの愛に影響する自分の魅力で有意な影響力のあったものをグラフ化した。まず、気づくのは友人関係と片思い関係で男性の自分の「美的魅力」が相手からの愛に貢献しているという「認識」であろう。この結果は、女性は友人段階、結婚相手で男性の「美的魅力」で相手への愛が促進されるという前の結果と呼応する。

男女とも「美的魅力」を異性関係樹立の初期の武器として認識しているのであろう。しかし、恋人関係以後では、自分の美的魅力が、相手からの愛に貢献しているという認識はないようである。

恋人、婚約者、結婚相手で相手からの愛に貢献する自分の魅力としては、「社会的魅力」であることは、男女共通である。「対人的魅力」は、婚約者では有意な影響があるが、他の関係では、影響力がない。

興味深い結果は、「地位と富」の影響力である。恋人、婚約者、結婚相手では、社会的地位や経済力が相手からの愛の阻害要因になっているという結果である。仲の良いカップルにおいて社会的地位や経済力が関係を阻害すると考えるよりも、お互いの愛の少ないカップルが社会的地位や経済力で結びついたと考えると理解できる結果である。「地位と富」は、支配性とも相関が高いことは、その因子負荷量を見れば分かる。支配性の高い相手は愛

されないのである。結婚関係などで、自分とパートナーとの社会的地位の差や、経済力の差があることは、劣等感などを介して二人の関係の質に阻害的影響を及ぼすようである。しかし、面白いことに、経済的に独立している不倫関係では、「地位と富」は、相手からの愛を得ることに貢献していると認識しているようだ。

Fig. 2-2 は、女性の方の相手の男性からの愛に影響する自分の魅力をグラフ化したものである。最初に気づくのは、友人から結婚相手に至るほとんどの男女関係で女性は、自分の「美的魅力」が相手の男性からの愛を得ることに貢献しているという「認識」である。これは、女性は、自らの美的魅力が男性の心をとらえることを幼少時からの社会化の過程で学習し、男性以上に自らの美的魅力を増すために、化粧や服飾のオシャレに気を使っていることに一致している。実際、男性は平均以上に美的魅力のある女性を異性相手に選んでいるという以前の研究にも一致している。しかし、実際との違いは、恋人以後の男女関係が成立した後は、美的魅力より、社会的魅力や対人的魅力という性格的魅力が重要になってくるという点である。しかし、女性は対人的魅力が婚約関係、結婚関係や不倫関係で重要であることは、認識しているようである。

自分の魅力と相手の魅力の影響力の中で大きな違いは、「相手の魅力」では、「性的魅力」は、男女すべての関係で相手への愛に影響しているのに対して、「自分の魅力」の中には、「性的魅力」が相手からの愛に影響しているという「認識」が男女ともない点である。考えられるのは、異性の性的魅力は認識できるが、異性に影響を及ぼす自らの性的魅力を認識するのは難しいということではないかと思われる。美的魅力は、自らの姿を鏡に映せば自分でもある程度は認識できる。しかし、自らの性的魅力を鏡に映したとしても、それは、自分と同性の性的魅力は感じられないということであろう。女性の性的魅力は男性のみが感じられ、男性の性的魅力は女性のみが感じられるということで、自らの性的魅力は、異性の意見によって「推察」はできるが、直接は「直観」されないということであろう。

関係満足度に影響する相手の魅力：

男女関係において「関係満足度」に影響を及ぼし、影響する相手の魅力について調べるために、目的変数を関係満足度とし、説明変数を相手との関係ごとの「相手の魅力」因子得点にして重回帰分析を行った。

Table 3に男女別、相手との関係別に行った重回帰分析の結果、有意および有意傾向のあった相手の魅力を表にした。

また、表の数値を男女別にグラフ化したものを Fig. 3-1 および Fig. 3-2 に示す。

Table 2 相手からの愛への魅力の重回帰分析

数値は標準偏回帰係数

性別	相手との関係	友人	片思い	恋人	婚約者	結婚相手	不倫相手
男性	社会的魅力(自分)			0.4184	0.4099	0.5415	
男性	対人的魅力(自分)		0.1849		0.3220		
男性	美的魅力(相手)	0.2349	0.2557				
男性	地位と富(自分)			-0.2917	-0.3244	-0.3323	0.4290
女性	社会的魅力(自分)				0.2611		
女性	対人的魅力(自分)				0.303593	0.2041	0.4316
女性	美的魅力(自分)	0.3501	0.3230	0.3741	0.256306	0.1728	
女性	地位と富(自分)			-0.26439	-0.36224		

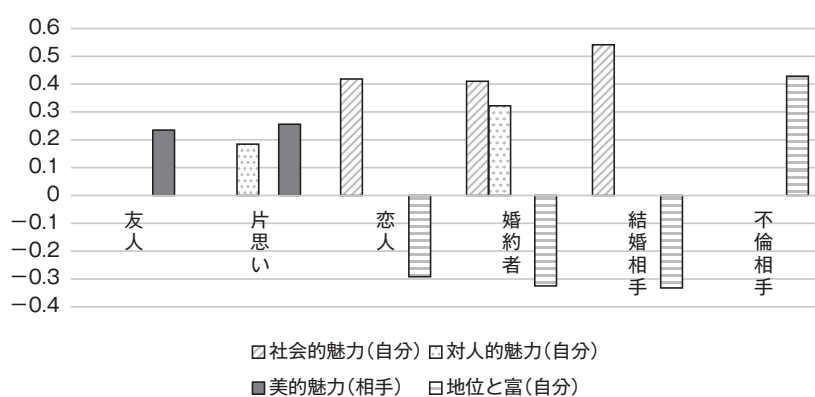


Fig. 2-1 相手からの愛に影響する自分の魅力 (男性)

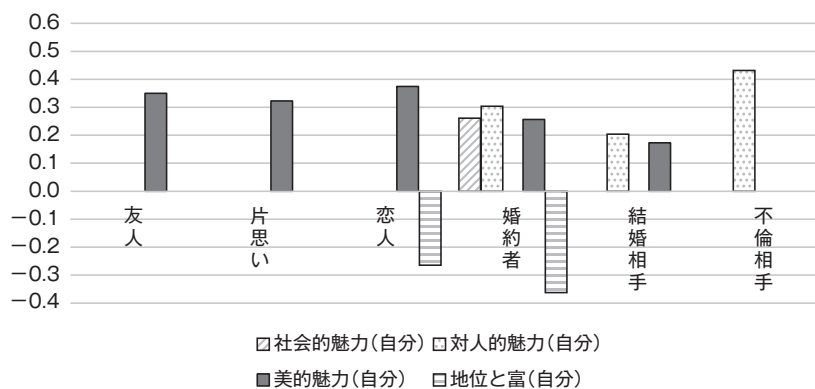


Fig. 2-2 相手からの愛に影響する自分の魅力 (女性)

まず、Fig. 3-1で男性の関係満足度に影響する相手の魅力のグラフを検討してみよう。友人、恋人、婚約者および不倫相手で共通に重要視されている魅力が「性的魅力」であることが分かる。しかし、結婚関係では「性的魅力」は重要視されていない。ここでも男性が女性の交際相手に望むと思われる「美的魅力」は、入っていない。片思い関係では、むしろ美的魅力は、関係を不満足に導くものとして認識されている。相手から関係を拒否され

ている片思い関係において、美的魅力は、フラストレーションの元として認識されているのであろう。全般的に美的魅力より「性的魅力」の方が関係満足度に大きな影響を及ぼしていると解釈できる。

次に気づくのは、片思い、恋人、婚約者、結婚相手に共通して「対人的魅力」が関係満足度に大きく貢献している。婚約者、結婚相手においては対人的魅力に加えて「社会的魅力」が関係満足度に貢献している。社会的魅力

は、誠実さ、勤勉さや有能性など仕事や家庭生活の義務などで有利に働く魅力であるので、この魅力が重視されるのは理解できる。

「地位と富」の魅力は、片思い関係でポジティブに評価されているのに、結婚関係でネガティブに評価されているのは、注目に値する。男性にとって相手の女性の社会的地位や経済力は、「逆玉の輿」的にポジティブに評価されるが、結婚した後では、自分より奥さんの社会的地位が高かったり、経済力があったりすると、男性の劣等感を刺激したり、相手から支配されるという感情が先立つのであろう。

恋人、婚約者、結婚関係で、関係満足度に貢献している相手の魅力は、性的魅力、対人的魅力、社会的魅力であると総括できるであろう。予想に反して相手の高い社会的地位や経済力は、関係満足度を阻害するものとして影響しているようだ。そういう意味でも「相手への愛」と「関係満足度」の様相は、ほとんど一致している。

Fig. 3-2 は、女性の関係満足度のグラフであるが、片思い、恋人、婚約者、結婚相手、不倫相手にすべての関係で、相手の「性的魅力」が重要視されている。女性においても相手の「美的魅力」の影響はないことも共通している。男性との違いは、相手の「対人的魅力」よりも「社会的魅力」が恋人、婚約者、結婚相手で重視されている点である。日常の言葉で、男性は女性の愛嬌（対人的魅力）を喜び、女性は男性の真面目さ（社会的魅力）を評価するということが一致している。

「地位と富」の魅力の結果は、興味深い。片思いや不倫関係など相手との結びつきが決定していない関係では、ポジティブに評価されているのに、婚約者、結婚相手では、逆にネガティブに評価されている。この傾向は男性でも同じであった。相手の「地位や富」などは、男女関係の初期では、ポジティブに評価されているのに、男女関係が確立する婚約、結婚関係では、むしろ「関係満足度」を阻害する要因になるのである。

女性特有のものとして、「身体的魅力」は、友人、恋人関係では、ポジティブに評価されている。「身体的魅力」とは、男性の高身長に代表される身体的魅力である。女性の多くが、高学歴、高収入、高身長の高を男性に望んでいるというのは周知のことであろう。しかし、不倫相手では、ネガティブな影響をしているようである。

相手の魅力のうち、「性的魅力」、「社会的魅力」、「地位と富」については、男女共通の影響があるといえるであろう

関係幸福度に影響する相手の魅力

男女関係において「関係幸福度」に影響を及ぼし、影響する相手の魅力について調べるために、目的変数を「関係幸福度」とし、説明変数を相手との関係ごとの「相手

の魅力」因子得点にして重回帰分析を行った。

Table 4 に男女別、相手との関係別に行った重回帰分析の結果、有意および有意傾向のあった相手の魅力を表にした。

また、表の数値を男女別にグラフ化したものを Fig. 4-1 および Fig. 4-2 に示す。

まず、Fig. 4-1 で男性の関係幸福度に影響する相手の魅力のグラフを検討してみよう。「性的魅力」は、関係満足度のグラフと違って、恋人関係と不倫関係のみで幸福度に影響している。婚約者、結婚相手では、影響力がない。男性では、恋人関係や不倫関係といった不安定な男女関係でのみ「性的魅力」が「関係幸福度」に影響するが、婚約、結婚関係では、影響力がなくなっている。「関係満足度」と「関係幸福度」の意味的違いは、身体的、欲求的なものに対して、心理的なものの違いとして理解することもできる。それとも男性特有の「クーリッジ効果」かもしれない。哺乳類のオスは同じメスと交尾をしていると、次第に性欲が衰えるが、違うメスと交尾できると性欲が維持できるというのが、「クーリッジ効果」と呼ばれている。

また、「関係幸福度」でも男性が女性の交際相手に望むと思われる「美的魅力」は、影響力に入っていない。一般的に「美的魅力」より「性的魅力」の方が関係満足度と同様、関係幸福度にも大きな影響を及ぼしていると解釈できる。

次に気づくのは、恋人、婚約者、結婚相手に共通して「対人的魅力」が関係幸福度に大きく貢献している。恋人、結婚相手においては「対人的魅力」に加えて「社会的魅力」が「関係幸福度」に貢献している。「対人的魅力」と「社会的魅力」とが安定した男女関係では、重要であることは、「関係満足度」とほぼ同じである。

「地位と富」の魅力は、結婚関係でネガティブに評価されているのは、「関係満足度」の結果とほぼ同じである。ただし、「関係満足度」では片思い関係や不倫関係で「地位と富」がポジティブに評価されていたが、「関係幸福度」では、そうしたポジティブな効果は認められない。

Fig. 4-2 は、女性の結婚幸福度のグラフであるが、片思い、恋人、婚約者、結婚相手、不倫相手にすべての関係で、相手の「性的魅力」が重要視されているのは「関係満足度」と同じである。

女性においても相手の「美的魅力」の影響はないことも共通している。むしろ、恋人関係、結婚関係など安定した関係では、相手の「対人的魅力」と「社会的魅力」などの性格的魅力が「美的魅力」や「地位と富」より重視されてきていることが見て取れる。

「地位と富」は、片思い関係ではポジティブに評価されているが、結婚相手では、逆にネガティブに評価されている。

Table 3 関係満足度への相手の魅力の重回帰分析

数値は標準偏回帰係数

性別	相手との関係	友人	片思い	恋人	婚約者	結婚相手	不倫相手
男性	社会的魅力 (相手の女性)				0.241524	0.3730	
男性	対人的魅力 (相手の女性)		0.2352	0.2293	0.324198	0.3141	
男性	性的魅力 (相手の女性)	0.2813		0.3578	0.220291		0.4450
男性	美的魅力 (相手の女性)		-0.35695				
男性	地位と富 (相手の女性)		0.364367			-0.3258	
性別	相手との関係	友人	片思い	恋人	婚約者	結婚相手	不倫相手
女性	社会的魅力 (相手の男性)			0.3111	0.5311	0.4218	
女性	対人的魅力 (相手の男性)					0.2353	
女性	性的魅力 (相手の男性)		0.2201	0.2535	0.285685	0.3219	0.2399
女性	身体的魅力 (相手の男性)	0.19612		0.2677			-0.1798
女性	地位と富 (相手)		0.3125		-0.26284	-0.2355	0.2543145

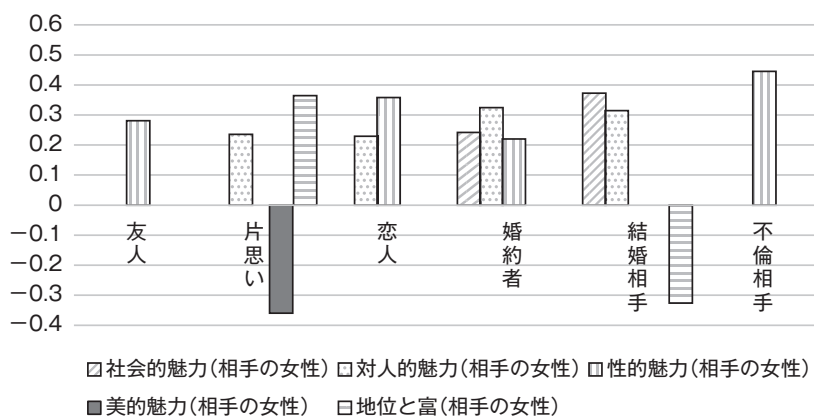


Fig. 3-1 男性の関係満足度に影響する相手の魅力

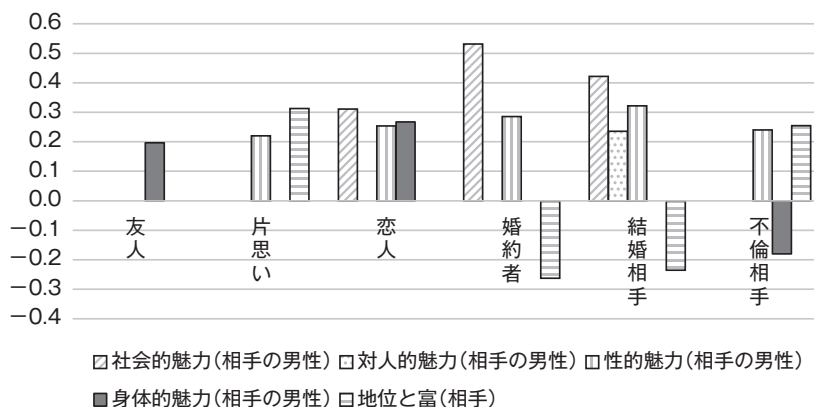


Fig. 3-2 女性の関係満足度に影響する相手の魅力

男女の結果を総合して見ると、「関係幸福度」と「関係満足度」の結果は、おおそ同じと言っていいかもしれない。恋人、婚約者、結婚関係で、「関係満足度」および「関係幸福度」に貢献している相手の魅力は、「性的魅力」、「対人的魅力」、「社会的魅力」であると総括できる

であろう。予想に反して相手の高い社会的地位や経済力は、関係満足度や関係幸福度を阻害するものとして影響しているようだ。また、一般の予想に反して「美的魅力」は、関係が確立した男女関係段階では、影響力がなくなって、それより生活を一緒にする上での重要な「対人的魅

Table 4 関係幸福度への魅力の重回帰分析

数値は標準偏回帰係数

性別	相手との関係	友人	片思い	恋人	婚約者	結婚相手	不倫相手
男性	社会的魅力（相手の女性）		0.3555	0.3558		0.4335	
男性	対人的魅力（相手の女性）			0.2669	0.443273	0.2626	
男性	性的魅力（相手の女性）	0.3258		0.2925			0.5628
男性	地位と富（相手の女性）					-0.3851	
女性	社会的魅力（相手の男性）	0.2111		0.1847	0.6203	0.3277	
女性	対人的魅力（相手の男性）	0.1784		0.2036		0.3430	0.2256
女性	性的魅力（相手の男性）		0.2322	0.3496	0.209112	0.2673	0.4333
女性	地位と富（相手の男性）		0.2503			-0.2373	

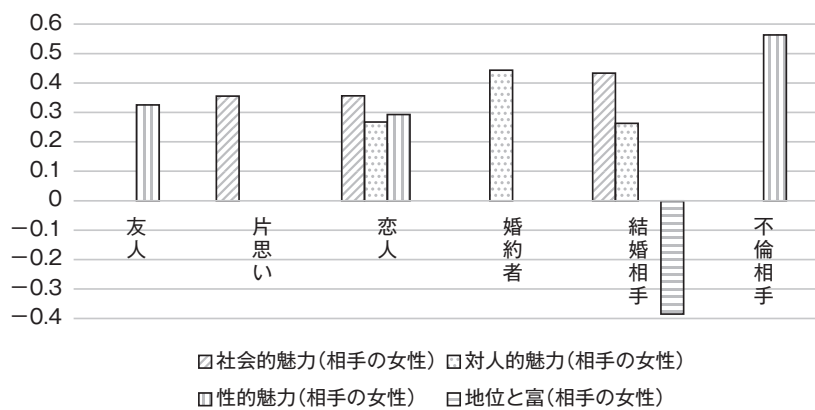


Fig. 4-1 男性の関係幸福度に影響する相手の魅力

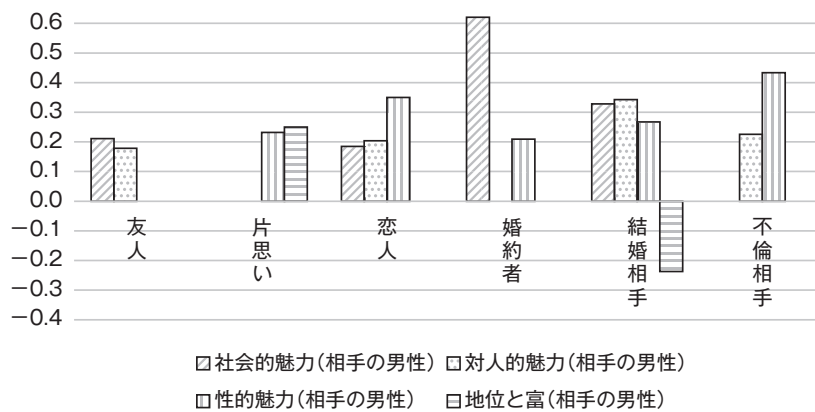


Fig. 4-2 女性の関係幸福度に影響する相手の魅力

力」や「社会的魅力」などの性格的魅力が「関係満足度」、「関係幸福度」に貢献するようになっていると言えよう。

また、「関係満足度」および「関係幸福度」の結果の様相は、「相手への愛」の結果とほとんど一致していると言えよう。

総合的考察：

今回の分析の結果をまとめてみると、以下のように要約できる。

1. 男女とも、一对一の男女関係が成立した後では、「性的魅力」、「対人的魅力」、「社会的魅力」を合わせ持った異性を愛し、それらが「関係満足度」、「関係幸福度」に貢献する。
2. 男性は、自分の「地位と富」、「社会的魅力」を女性への売りとして認識している。
3. 女性は、自分の「美的魅力」と「対人的魅力」を男性への売りとして認識している傾向がある。
4. 「異性の性的魅力」は直観的に理解されるが、「同性でない自分の性的魅力」は認識しにくい。
5. 「美的魅力」に関しては、相手の美的魅力、自分の美的魅力ともに認識できる。
6. 「女性の美的魅力」は、男性が女性に希望する魅力であるし、女性も男性の気を惹くのに効果があると思っ

ているが、恋人関係、結婚関係では、その影響力は、愛や「関係幸福度」に影響しなくなっている。

7. 相手の「社会的地位」や「経済力」などは、友人、片思い、不倫関係など男女の関係の確立していない状況では、ポジティブに評価されることもあるが、恋人関係、結婚関係など確立した男女関係では、逆にネガティブに影響を及ぼす。
8. 「美的魅力」、「地位と富」のような魅力は、男女関係で遠い関係で威力を発揮するが、「性的魅力」、「対人的魅力」、「社会的魅力」などは、恋人結婚相手など確立した近い男女関係で威力を発揮する魅力である。

引用文献

- 川名好裕 2019 男女関係における魅力と関係満足度
立正大学心理学研究所紀要17号 1-16
- 川名好裕 2021 韓国の男女関係における魅力と満足度
立正大学心理学研究年報 第12号

要約

インターネット調査で20代～40代の男性518名の男性と女性606名について最も好意を持っている異性についての調査データを魅力と愛、関係幸福度などについて分析した。一般に男性は「美的魅力」の高い女性を、女性は「社会的地位や経済力」のある男性を希望するが、それらの魅力が、相互の愛や関係満足度や関係幸福度に影響を及ぼすものであるかを男女の関係種類ごとに重回帰分析を実施した。その結果、恋人関係や結婚関係では、女性の「美的魅力」の影響はないことが判明した。また、「地位や経済力」などは、友人関係、片思い関係、不倫関係など相手との関係が確立していない遠い男女関係では、重要視されるが、結婚関係などでは、逆に「地位や経済力」などは、相手への愛や関係満足度や幸福度を阻害する要因であることが判明した。

恋人関係、婚約関係、結婚関係で、相手への愛や関係満足度、関係幸福度を促進している要因は、相手の「性的魅力」「社会的魅力」「対人的魅力」であることが判明した。

キーワード：男女関係、魅力、愛、関係満足度、関係幸福度